



モバイル利用のライフスタイル(3)

—シニアのスマートフォン所有者における関与1—

- 近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
- 水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
- 飽戸 弘 (東京大学名誉教授)

1. 調査・研究概要

シニア世代の生活をより豊かにするために
“必要とされること”、“I C Tが貢献し得ること”を検討する。

基礎調査（1回目）2015.10

シニアのタイプ
分類を実施

シニアにも様々なタイプが存在

A

B

C

D

重要設問抜粋

基礎調査（2017年～毎年1月）

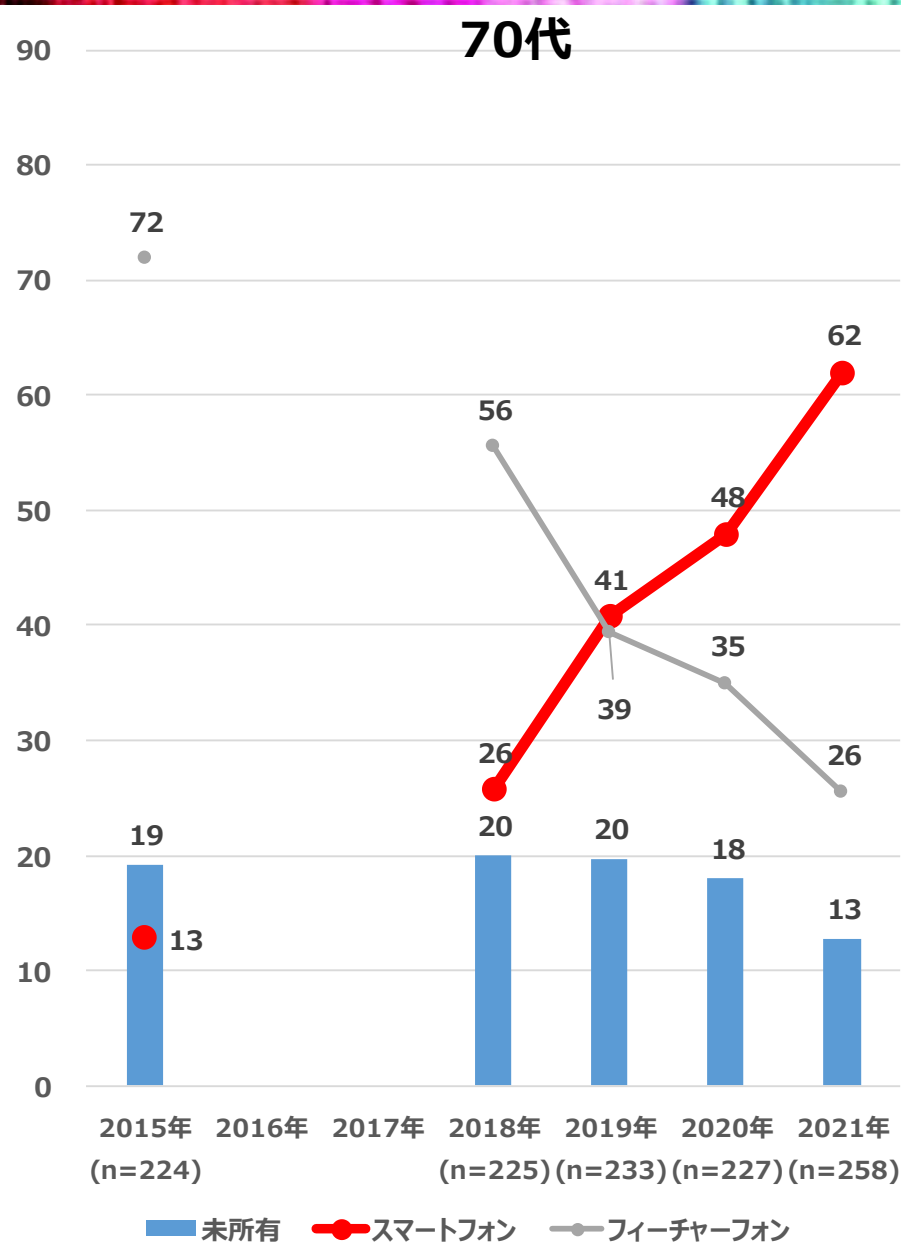
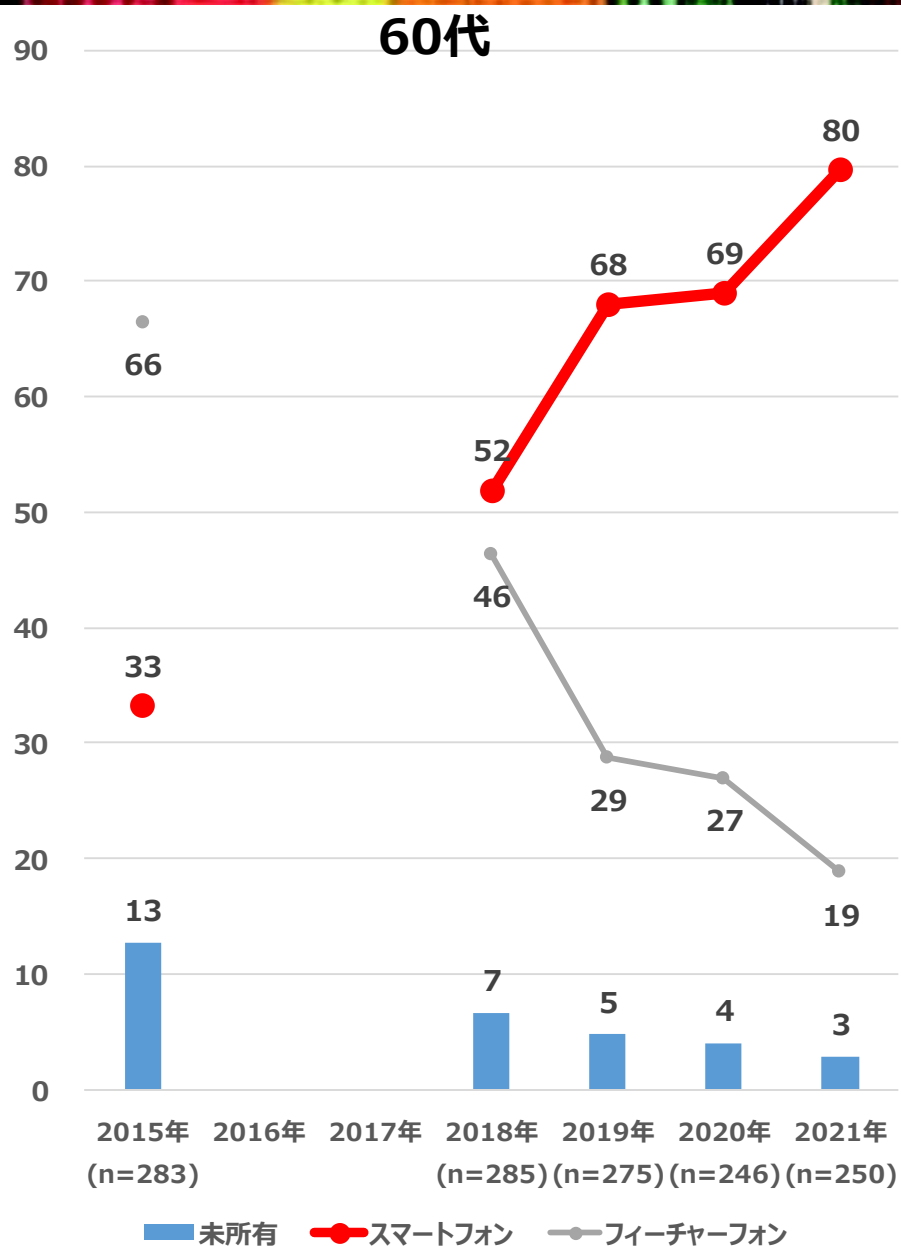
シニア全体：経年比較

ライフスタイル

日々の活動・イノベータ度・地域への愛着・地域活動への参加等

I C T利活用

デバイス所有状況・サービス利用・スマホへの関与・
スマホ、ケータイ利用による人との繋がり等



目的

急激に普及したスマホ。シニアはスマホに対し、どのような態度であるか。



直近でスマホを所有したシニア中心に、積極的ではない（使いこなしていない・ガラケーと同じ）層が存在しているのではないか

調査概要

調査時期	2021.1
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	関東1都6県 60歳～79歳の男女
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・年齢・都市規模で割付
サンプル数	506（スマホ所有者374人が本稿の分析対象）

2. 調査結果

因子分析及びクラスタ分析

分析の軸

スマホ所有者の「**関与**」に関する項目を基軸に分析を実施する

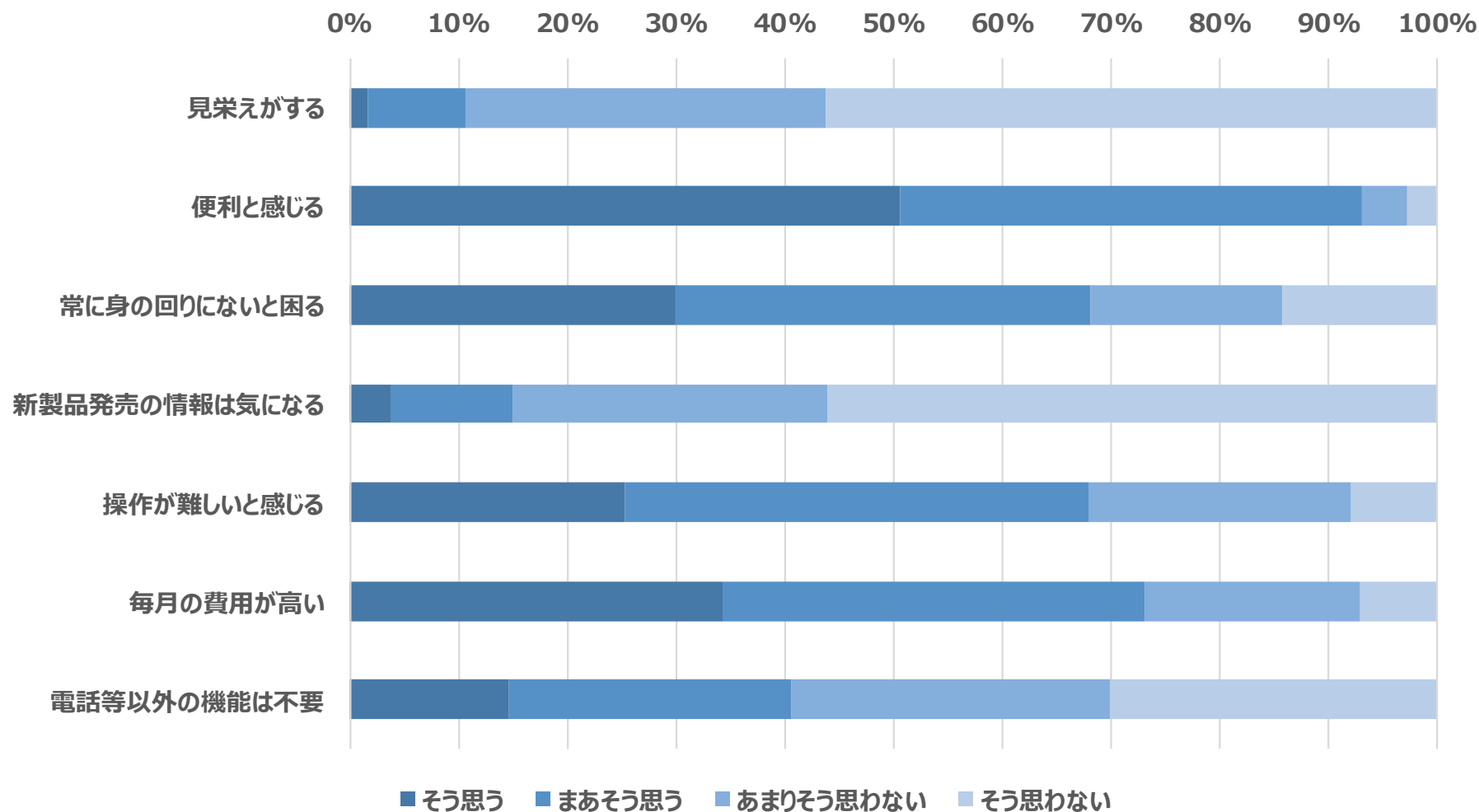
分析流れ

1. 関与の回答傾向をみるために「**因子分析**」を実施
2. 因子分析結果を元に「**クラスタ分析**」を実施
3. クラスタ間の特性をみるため「**数量化理論第2類**」を用いて分析を実施



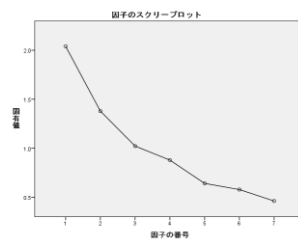
モバイル利用のライフスタイル(4)で報告

便利と感じるが9割を超える一方、操作が難しいと感じるも7割弱回答



説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	2.041	29.152	29.152	1.614	23.051	23.051	1.061	15.162	15.162
2	1.378	19.692	48.845	0.825	11.782	34.832	1.026	14.658	29.820
3	1.022	14.598	63.442	0.551	7.868	42.700	0.902	12.880	42.700
4	0.879	12.554	75.997						
5	0.641	9.156	85.152						
6	0.578	8.259	93.411						
7	0.461	6.589	100.000						



3つの因子を抽出 第一因子「情報」第二因子「実用」第三因子「困難」とする

回転後の因子行列 ^a			
	因子		
	情報	実用	困難
新製品発売の情報は気になる	0.92	0.18	-0.14
見栄えがする	0.23	0.08	0.06
便利と感じる	0.08	0.77	0.04
常に身の回りにないと困る	0.31	0.54	-0.04
操作が難しいと感じる	-0.06	-0.03	0.78
電話等以外の機能は不要	-0.20	-0.32	0.41
毎月の費用が高い	0.14	0.07	0.32

因子分析結果を元に、4つのクラスタ（1つは参考）に分けることができた

因子	クラスタ				
	混在	【参考】 低関心	積極	実用	消極
情報	-0.26	0.10	1.81	-0.37	-0.34
実用	0.66	-2.26	0.39	0.34	-0.52
困難	0.49	-0.67	-0.15	-0.94	0.40
サンプル数	86	16	52	80	131
構成比	23.6	4.4	14.2	21.9	35.9

各クラスタの特性はモバイル利用のライフスタイル(4)で報告